

小木の子 われら

校区内
全戸回覧

令和8年2月3日発行

小木っ子のよりよい成長を願って

～「子育てに方程式はないけれど、『XとYの法則』から考える」の巻～

校長 本間 智英

第3学期が始まったばかりのような気持ちでしたが、2月になってしまいました。令和7年度のゴールが見えてきました。保護者、地域の皆様には、日ごろから子どもたちや私たち教職員に温かいお言葉をかけていただきありがとうございます。



1月19日チャレンジタイム

突然ですが、私には二人の息子がいます。次男は高校3年生、4月からは島外へ出る予定です。20数年の子育ても一段落？ となりそうです。

親と子が幸せになる
「Xの法則」の図

さて、私たち親の役目の一つは、子どもが**自分で考えて、自分で行動し、自分で責任をとる**ようにすること、つまり、**子どもの自立**です。

左の図は、縦軸が力の大きさ、横軸は子どもの年齢です。子どもの成長にともなって親が子どものためにつかう力は少しずつ減り、子どもは自分でできることが増え、右肩上がりの線になります。すると、交

わる部分、いわゆる「反抗期」と呼ばれる時期が来ます。**反抗期は、自立ができるようになってきた証拠**だとも言われます。

しかし、右の図は、途中から親と子の線が交わることなく、平行になっています。知らず知らずに親が**子どもに圧力をかけている形**です。圧力の中身は、**過保護や過干渉**です。過保護とは、親が子どもの代わりに何でもやってしまうことで、子どもは**自ら行動しようとはせず、受け身になりがち**になるそうです。過干渉とは、親が子どもの頭となって、子どもの代わりに何でも考えてあげることで、子どもは**親の顔をうかがってばかり**いたり、**意欲に乏しく**なったり、**新しい環境を怖がり**してしまいがちになるそうです。

親と子の幸せが遠くなる
「Yの法則」の図

上記のことを知り、私の子育ては…、と少し不安になりました。

これからも小木っ子のよりよい成長のために、皆様と一緒に考え、話し合っていこうと思います。ご挨拶が遅くなりましたが、**本年もよろしく**お願いいたします。